



佐渡市と富士通が二人三脚で取り組む地域DX ～「20年後の日本の縮図」を目指す、DXによる豊かな島づくり～



佐渡市総務部総務課
デジタル政策室 主事
長谷川 博也 様

世界遺産への登録推薦で注目を集める新潟県佐渡市では、高齢化や人口減少、産業の衰退などの課題解決に向けて、地域DXを推進。その一環として民間企業のデジタル人材を活用すべく、2022年度から富士通Japanの社員2名を迎え入れています。これを機に、ファミリー会信越支部の会員に加わった佐渡市の取り組みを紹介します。

Profile

新潟県佐渡市 様

新潟市から西に約45キロ離れた日本海に位置する佐渡島は、日本海側では最大の離島です。離島のため遠く離れたイメージがありますが、新幹線と高速船を乗り継げば、東京から最短3時間半で訪れることができます。島の周囲を流れる暖流のおかげで、意外なほど温かく雪も少ない島内は、豊かな自然に囲まれ日本の原風景が楽しめます。大自然と調和した持続可能な島づくりに取り組み、2022年度に「SDGs未来都市」および「脱炭素先行地域」に選定されています。



● 高齢化の進行に伴う地域課題を解決すべく、地域DXを推進

東京23区の約1.4倍にあたる広さに約5万人の島民が暮らす佐渡島。近年では人口減少に加えて若年層の流出が加速し、高齢化率は40%を超えており、産業の後継者不足や医療、介護、福祉、交通など多くの課題に直面しています。

「20年後の日本の縮図」とも言われるこの地の行政を担う佐渡市では、これらの課題の解決に寄与するデジタル技術の活用に向けて、地域DXを推進。市長を最高責任者、副市長をCIOに、各部門が連携しながら取り組む推進体制を構築し、2022年5月に「デジタル政策推進計画」を発表しました。

中でも舵取り役となるデジタル政策室の長谷川氏は、DXへの期待を次のように語ります。「ICTやデジタルの力で離島というハンデを克服し、子供からお年寄りまで、すべての島民が安心して暮らせる地域づくりに取り組んでいきたいと思っています」。

● 「市民の声」を活かしながら、3つの視点で地域DXを推進

佐渡市では、行政と市民が一体となって地域DXを推進すべく、職員・市民を問わず幅広く意見を募るためのワークショップを11月から12月にかけて5回にわたり開催。DXに関心のある方や、地域おこしプロジェクトに関

わる方なども参加し、多くの意見やアイデアが寄せられました。今後はこれらをもとに「ビジョンマップ」を策定し、その実現に向けた本格的な取り組みを開始する計画です。

現時点では「庁内」「暮らし」「産業・おもてなし」という3つの視点からDXに取り組む方針を掲げています（詳細は下表を参照）。

表) 3つの視点からの地域DXの取り組み

| | |
|----------------|---|
| 庁内のデジタル化 | <ul style="list-style-type: none"> ■ ガバメントクラウド(基幹業務システムの統一・標準化)への対応 ■ 庁内事務手続きの効率化・高度化に向けたデジタル活用 ■ デジタル人材育成支援 |
| くらしのデジタル化 | <ul style="list-style-type: none"> ■ マイナンバーカード活用など、デジタル施策の企画・導入支援 ■ 島民の健康寿命延伸に向けたデジタル活用 ■ 市民生活に関する新たな情報配信 |
| 産業・おもてなしのデジタル化 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 新たな移動サービスや、キャッシュレス化の実現に向けた取り組み ■ スマート農業など一次産業に関するデジタル化の取り組み |



佐渡市デジタル化構想策定のためのワークショップの様子

●「地方創生人材支援制度」を活用し、富士通からデジタル人材を登用

デジタル化を推進させるため、佐渡市は内閣府の「地方創生人材支援制度」を活用しデジタル人材の派遣を申請。内閣府からマッチングされた数社の中から富士通Japanが選定され、社内公募で手を挙げた2名が派遣されることになりました。

佐渡市総務課でデジタル政策主幹を務める中川氏は「生まれ育った佐渡に貢献したいと思い、応募しました。佐渡市の取り組みをモデルに、同じ課題を持つ国内各地の課題解決に役立てていきたいですね」と抱負を語ります。また、同じくデジタル政策室でデジタル推進係長を務める桃原氏は「ここで応募しないと一生後悔すると思って手を挙げました。『ワクワクできるような社会実装』をキーワードに、島民の皆さんの利便性向上に取り組んでいきます」と意気込みを語ります。



富士通Japanから出向した中川裕デジタル政策主幹(左)と桃原里沙デジタル推進係長(右)

●富士通からの出向者やファミリー会とも連携し、デジタル人材の育成を推進

「市内ではデジタル人材の確保・育成が課題となっており、国内トップレベルの技術力を持つ富士通Japanさんから経験豊富な2名が加わってくれたことを、大変心強く思っています」と長谷川氏は語ります。「一緒に働いてみて感じたのは、デジタル知識もさることなが

ら、民間企業との働き方の違い。タスク管理の手法や、事前の打ち合わせに時間を取る分、実際に取り掛かるとスピーディーに進むなど、これまでの市内になかったノウハウを吸収していきたいですね。

今後は外部人材の活用に加えて、市内でのデジタル人材の育成にも注力。9～10月にかけて「市内デジタルリーダー」を公募したところ、若手を中心に8名の応募があり、出向者2名の支援のもと、情報共有会を継続的に開催しています。こうした取り組みの一環として、FUJITSUファミリー会信越支部にも加入いただきました。その狙いについて長谷川氏は「リーズナブルな費用で多彩なイベントやセミナーに無制限で参加できるのが魅力。今後、FUJITSUファミリー会を通じてコミュニケーションを深め、様々な先端情報をキャッチしていきたいと思っています」と語ります。

今後、佐渡市の地域DXがどのような成果を導いていくのか、引き続き注目したいところです。

FUJITSUファミリー会信越支部
メール contact-family-sinetu@cs.jp.fujitsu.com

佐渡島の美しい景色と島の風薫るベーカリ&カフェ「しまふうみ」

真野湾沿いにあり、日本海を一望できるベーカリーカフェで、佐渡の豊かな風と自然を身体いっぱいに感じることができます。

水平線を眺め、波の音を聞き、しまかぜにあたりながら、佐渡産の果物で育てた自家製酵母で発酵させた焼きたてのパンをいただく贅沢な佐渡タイム。

日々の疲れを癒す旅行の際はもちろん、ワーケーションでの滞在に利用されると、良質な業務・効率化につながるのにおすすめです。



Column

富士通Japanの協力のもと、デジタル技術を活用した避難訓練を実施

2022年11月13日(日)、佐渡市福浦地区において富士通Japanの協力のもとにデジタル技術を活用した避難訓練を実施しました。訓練では、家庭内に設置した防災タブレットが情報を受信して災害警報を出し、タブレットに表示される避難情報のもとに避難を開始。避難所では、受付にスマートフォンや事前に配布した携帯カードに表示されるQRコードを活用することで受付の効率化を図りました。



QRコードによる避難所受付



モバイル端末による災害警報発信